

# 市議会ではこんな活動もしています

◆市議会議員は、議会のほかにも、各々が所属する委員会等に関する会議や視察、研修などに出席しています。

## 平成25年11月1日～平成26年1月31日の議会の主な活動

日	活動内容
11月6日	西多摩地区議長会議員研修会、西多摩地区議長会定例会議
5日	第12回議会だより編集委員会／視察受入れ（茨城県稲敷郡阿見町議会産業建設常任委員会）／全国市議会議長会第95回評議員会／三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3委員会
8日	平成25年第2回瑞穂斎場組合協議会（定例会）
11日	全国市議会議長会基地協議会関東部会総会
12日	視察（北海道《株式会社マテック 札幌市リサイクル団地 モエレ沼公園他》）
14日	羽村市商工会と経済委員会の懇談会
15日	北杜市議会議員との交流事業（西多摩衛生組合視察及び行政課題研修）
19日	平成25年第3回青梅、羽村地区工業用水道企業団議会（定例会）
20日	全国市議会議長会基地協議会第80回理事会及び衆・参基地関係委員会委員との要望懇談会／平成25年第2回福生病院組合協議会（定例会）
21日	東京都市議会議長会理事會、東京都市議会議長会定例会
25日	大多摩観光連盟平成25年度臨時総会
26日	平成25年第3回羽村・瑞穂地区学校給食組合協議会（定例会）
27日	平成25年第2回西多摩衛生組合協議会（定例会）
28日	第13回議会だより編集委員会
12月3日	第6回羽村市議会（定例会）
11日	第4回厚生委員会、第4回総務委員会
12日	第4回経済委員会
16日	第10回議会運営委員会
17日	羽村市議会議員研修会「地域に根差した子育て支援とは」
26日	第14回議会だより編集委員会
14日	第1回議会だより編集委員会
20日	多摩都市モノレール建設促進特別委員会行政視察（多摩都市モノレール株）
21日	三多摩上下水及び道路建設促進協議会第1委員会
22日	平成26年第1回青梅、羽村地区工業用水道企業団議会議員全員協議会
23日	東京都三多摩地区消防運営協議会役員会
24日	平成25年度第2回羽村市官公署等連絡協議会／三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3委員会
27日	平成26年東京都市町村議会議員公務災害補償等組合協議会（定例会）
29日	視察受入れ（山口県山口市議会議政クラブ）
30日	三多摩上下水及び道路建設促進協議会第2委員会

## 平成25年視察報告

# 常任委員会 視察報告

私たち市議会議員は、特色ある施策を実施して優れた成果をあげている自治体や団体に学ぶため、所管の行政分野について、視察や関係団体との懇談会などの調査・研究を行っています。これらの活動を通じ、羽村市が抱えるさまざまな課題などについて理解を深め、今後の行政運営に反映させるよう努めています。

平成25年に行った常任委員会の主な視察・調査活動の概要をお知らせします。

### 総務委員会

委員 濱中俊男（委員長）

富松崇（副委員長）、石居尚郎

水野義裕、船木良教 門間淑子

研究テーマ 行政運営および事務管理

視察先

宮城県石巻市・震災廃棄物選別処理施設／  
宮城県牡鹿郡  
女川町役場  
（仮庁舎）・亘理町「いちご団地」／福島県福島市「除染情報プラザ」／福島県双葉郡楢葉町除染現場



総務委員（左から 富松副委員長、濱中委員長、門間委員）

### 経済委員会

委員 西川美佐保（委員長）

川崎明夫（副委員長）、富永訓正

橋本弘山、山崎陽一、馳平耕三

研究テーマ 商工業の振興

視察先



経済委員（左から 富永委員、川崎副委員長、1人おいて、西川委員長、橋本委員、馳平委員、山崎委員）

### 厚生委員会

委員 大塚あかね（委員長）

小宮國暉（副委員長）、印南修太

中嶋勝、鈴木拓也、瀧島愛夫

研究テーマ 高齢福祉および子育て支援

視察先



厚生委員（左から 印南委員、鈴木委員、小宮副委員長、大塚委員長、1人おいて、瀧島委員、中嶋委員）

## 議員 研修会

### 「地域に根差した子育て支援とは」

～子育て支援施策の経緯と最新動向を踏まえて～

講師 大日向 雅美 氏（恵泉女学園大学大学院 平和学研究科教授）



講師の大日向先生

12月17日、内閣府所管の子ども子育て会議委員でもある大日向さんをお招きして、子育て支援施策について、これまでの経緯と最新の動向を踏まえて講演をいただきました。

社会保障制度改革の変化を交えながら、少子化対策と子ども・子育て支援の今までの取り組み、また、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法を含めた子ども・子育ての新制度についてのお話を伺いました。

これまで社会保障は「医療」、「年金」、「介護」の3分野だったが、今回の改革で「少子化対策／子ども・子育て支援」が加わったことは歴史的意味があること、今後の子育て支援施策は歴史的経過の視点と子ども・子育て関連3法の評価をもって、事業展開をしていかなければならないなど、長年、母性研究の第一人者として活躍されている大日向さんのお話はとても意義深いものでした。



総務委員会

東日本大震災の被災地の復興状況を調査することが必要との考えのもと、宮城県と福島県を視察しました。百聞は一見に如かずとはいえ、実際に現場に立ってみると、今後のさらなる支援の必要性を感じました。



↑手作業で廃棄物の選別処理をしている(石巻市)

10月22日 宮城県石巻市

初日には、石巻市にある震災廃棄物選別処理施設を訪問。宮城県を4ブロックに分けたうちの石巻ブロックは、県全体の半分の量を担当する大規模なもので、平成26年3月の処理完了を目標に急ピッチで作業が行われていました。その中でも注目に値するのは、処理をしたもののうちの8割は再生利用されている

総務委員会は、主に、市の基本構想などの重要施策や市民との協働、また、教育や防犯、防災などに関することを担当しています。今回は、東日本大震災の復興状況を視察しました。

【視察内容】

- 10月22日 宮城県石巻市・震災廃棄物選別処理施設
- 「災害廃棄物処理の現状及び復興状況等について」
- 10月23日 宮城県牡鹿郡女川町役場(仮庁舎) / 巨理町いちご団地
- 「災害廃棄物処理の現状及び復興状況等について」
- 10月24日 福島県福島市・除染情報プラザ/ 楡葉町除染現場
- 「福島第一原発の影響による避難及び除染の現状と今後の見通しについて」

10月23日 宮城県女川町・巨理町

2日目は、女川町を訪問。東京都は復旧復興を一日も早く進めるため、女川町の災害廃棄物の受け入れを決め、羽村市の西多摩衛生組合でも昨年3月まで受け入れていま

た。現在は災害廃棄物の処理は完了し、復興事業がこれから開始される段階となっています。主な事業としては、防災のための集団移転を促進する事業、被災した市街地の復興土地画整理事業、津波復興拠点整備事業、農業集落の防災機能を強化する事業などが予定されています。女川町の議長・副議長も家を流され、現段階では仮設住宅に住んでおられ、その現地も案内していただきました。懇談では、この縁をきっかけに町の活性化



津波で基礎から倒れた建物が残されている(女川町) →

や復興につながる継続的な交流ができればとの話題も出ました。女川町を後にして巨理町へ向かいました。東北一のいちご生産地であった巨理町もまた壊滅的な被害を受けた地域です。町は復興交付金で町内3か所に計68・5ヘクタールを造成していちご団地を整備しました。巨理町いちご団地管理組合



↑いちごに託した復興の意気込みを語る森組会長(巨理町)

の森栄吉組合長は「復興へ大きな一歩。高品質の実を収穫することが第一とし、今後は関東にも進出したい」と意気込みを語っておられました。3日目は、放射能汚染に苦しむ福島県楡葉町で行われている除染の様子を視察しました。

10月24日 福島県楡葉町

東京電力福島第1原発事故により、福島県の多くの大地が放射能で汚染され、避難指示が出された11の市町村から人影が消えました。これらの高線量汚染地域の除染は国が直轄で行い、残りの地域は市町村が行うことになっています。

11の市町村は、「警戒区域・計画的避難区域」に2分され、その後、「帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域」に3分されました。楡葉町は、ほぼ全域が東京電力福島第1原発から20キロメートル圏内に含まれ、警戒区域から避難指示解除準備区域に指定され、7600人・2500世帯の全住民は、今も避難生活が続ぎ、約5600人がいわき市に避難しています。



↑汚染土壌や草木の仮置き場(楡葉町)

環境省福島環境再生事務所・浜通り南支所の案内で、除染作業中の「仮置き場」を視察しました。仮置き場は、地面に遮水シートを敷き、その上に汚染土壌や草木を詰めた約1立方メートル容量の黒いビニール袋(フレコンバック)を3段に積み重ね、上部も遮水シートで覆って密封状態にして、中間貯蔵施設に移すまで保管します。民家1軒を除染すると、汚染物質はフレコンバック10個分にもなるそうです。楡葉町

の仮置き場は11か所もありますが、広い田んぼに放射性物質が積み上がっている様子は、やはり異様でした。津波と地震の影響を受けた常磐線の復旧工事も進められていて、線路に沿って汚染物の入ったフレコンバックが現場保管されていました。放射性物質の半減期の長さ、汚染された地域の広さを考えれば、にぎわいのある地域、不安なく暮らせる土地が取り戻せるのか、復興への道は果てしなく遠いと言わざるを得ません。